



素情軒抄言貳

金部抄四卷

^ 13

2924

2



13
2924
2

昭和九
二月二日
購

契情肝粒志卷下

鼻山人著

○奥ふあれば水も又ふあるの味
娼妓の魂神を蕩すの斧。藝者翫問の氣を其の
城りある。されば斧と鐵のありあへ。うある武蔵守のの
なちまち粹あるとあり。通人といひまゝ。唐人の潮をみる
中。のめを。おびまゝ。その身は宿あり。は茶とありし。

知多
村木

[illegible][illegible]

こつアおどならようらう。おせんでも山の中での叶ア
鹿 まっしひ立あとりと。あえートのあえをモイ
 わえち湯を。入して焚って来い。ヨ**夷**を中く出いあえ
 トとろく大**金** こんな銘茶のせんど売ア。せめをうけで食の
 其。おとんぐいのの**夷**をうらゝるのをあつせん。茶
 売ア。さだが給もトサ**金** さうサ。茶売あつてのさだ父
 茶ろで出ア。つらるがあらを**鹿** マヤへ金さんあつじい
 るのをあつせん**金** あんとものあらをらう。選ぶらん人ア
 せん

びらねん**夷**をいさねハ何とサレイす**金** けさねく
 けさねハ一刷の銘鉄外スガあらサ**鹿** 夷馬さんあせ
 金さんのつお金ちや。叶いせんヨトのあつる**夷** コレノ。み
 どうや。先きうつ着をさうむらうをいさねの。チヨットア
 ちよん
 お菊さんのあつてねへけの。山口金の七種とんがあら
 ちよん
 あつらうの。今狂が出ア。すトあらせその。あつてあつて
 ちよん
 初集でうら。なまうて病イあらや。義理があつてあつて
 ちよん
み アイ**金** 強勢以上の中ふの。字ッは山あつての**鹿** 又

今^{いま} まう所付ケぬめふ一冬春れどぞ^{ひとふゆはる}
 難^{がた}ふござります。まづお行付てやましとらひて
 甘^{あま}う^{あま}サハ小使おもあえ^{こしやく}金^{かね}カウそのいづきも版^{はん}
 ねお坊^{おぼく}て並バつりても掘^ほるふるむせ^{ほり}
 あんーヨトあのなもとすろ。失^{あやま}れずもの有^{あり}き^{こと}
 まうゝさうひえんと。けし、の幕^{まく}ぢや通^{とお}るちが大^{だい}
 男^{おとこ}わどの健^{けん}々^{ぜん}の相^{あい}なへ。なる拍子^{ひょうし}まく
 のえんやであらぬれ場^ばでござります。金^{かね}あんまり

さうでもゆくわいのち。独り幕巻の夜明しをみる
 ちやまを^し修られハケト清^らゆつふとぎります
 サア〜二ッ吞^のぬあふがゆゑもかみはるつめてくあつさせ^え修^え〜と
 とれが^よ更〜とどろくもあつ二ッ敷^いきまをせ〜^{トせんく}
 ちやまを^えす^え修^えけ人^いやむら〜ふとれで入^え修^えさやうサ^え是^えであつ
 ちやア。利^きが^きまるめとどろくもあつ^ち修^え入^え水^{みづ}あつ
 あども若^わ〜ぐうの時^{とき}ア。あつれ葉^はをまぐ〜とあつて^あ
 二ッ合^あつるといふ^い淋^{しみ}〜ひあれもする方^{かた}サ。さや〜^さ夾^さうせ

たんの枕抱びへ嫌ふ止りしと云。莊子も一睡の轉あるじ
 云ふ今更なる一を捨てるの付、元々無。座し死の中へ
 面白く抱びて。床へ入る能く考へられ、家内へ移るす
 女をうふまで。床にもあるは、社会せふ。大それた娼妓
 業も。つまらぬもの。ト云ふ。だん。男モ、イザを考へて、抱い
 せんす。金。チツト。背ぐるのせあり。男。あんさんす。なを
 かき。金。外。の。ちや。ぬ。が。ま。う
 云ふ。今。夜。涼。う。で。来。ら。ま。や。せん。男。行。し。て。ま。あ。と。や。

まあでせうすくねーのまねもあんなせん。それ
 も。嫌ふあんなん。こゝろ金分許あつた。嫌ふあんなん
 の百年も別縁でまゐる。山くぐれとせめてえぬ
 内うちの山の神かみぐうあぬまやぶるあから金さへる。川
 ぶやう。驚きおもてまゐる人あも附合はる。かもゆふ
 ありへ真実まことのある。たのめ。ひんとあつて。女さうあまで
 あつた。たきふゆ中。こゝろ情事のいふ。ききふ。あ
 うら里猪うらじのまね喧嘩けんかと鼻はなのさで。金救つて。あ

も。あてやらぬぢや。あらず。むせうお出歩けるも。まづ
 せん^{あん}まゝあてて居受けや。外の才子の弟もすゝやせん
 のサ。さういふ知人^{とも}を分^まあつて退^まけるんを笑ふぞ。らん
 あるのが知^ししやうんあら。まゝや。尚^{なほ}大志^{たいし}くぶりの^い冷^ひめらん
 あうりやト考^{かん}へてえればるやど。とてもおまへもあはれ遠^{とほ}く
 縁^{えん}付^づくあれば。なとふにぬやど。恍惚^{くわくご}てなても。両^{りやう}智^ち屋^やの
 数^{かず}段^{だん}を伯父^{おぢ}さぬおも持^もず。とても長く続^つくおるや。ん
 から忘れて居^ゐるやとれど。おまへの心^{こころ}意^いまが。あり難^{がた}くをう

ねえ、
 そろそろ経つて死ぬまでも。わちうふあつてまう。それまで
 きき
 事やうが。今いふ通つゝの状合どうら。むじむじ悪く思つてえ
 なるん。又る拍子のいゝりでもあややア車ふまうとぞよ
 まひあう
 ますあがら。おりの行らとあも。あつて上ヶやせう。罌 子
 めん。さうぞおぢやうふすう。うちも迷ひておぼろうら。むじ
 まあ
 か。おののののの。今とあつてよ。びびおけやうとら
 す
 泣いせん。おぢやうの肉ふおぼあへすま。でぞうぞ。花の
 うち。おぢやう
 中へ。おぢやうおぼあへ。さうおぢやうおぼあへ。おぼあへ。

[illegible][illegible]

つるせん可也。さうことおひつて、末のすゝまで見捨てお出し
 うけておらんあへ^金_金おれもゆきを女がうふするまややねるま
 なとばういづな。若方若患を^{くろく}_{くろく}しても。は方^{ちや}_{ちや}。然らぬくら
 た^{ちや}_{ちや}。困窮する^の_の方のうふ。修む世おがらす果てをめ
 まよせざる^{こころ}_{こころ}。後悔をするやなる^{えん}_{えん}。あらわしきもの
 毒ごそれと。それも是もそんな縁有^{えん}_{えん}。天無^{たみ}_{たみ}。衆ト男が
 い^男_男おれんとあんする。ぶのやなる^{あり}_{あり}。いせうとの世
 悲を^{おも}_{おも}するやなる関情ある。らんあふきいゆひせん^図_図と人

[illegible]

